

里親からの意見聴取結果（主な意見）

里親としてのやりがい

- 里親養育をしていてやりがいを感じることは何ですか。
- ・成人した子が家を訪れ、近況を知らせてくれること。
- ・里子がいたからこそ行けた、キャンプや遊園地の思い出や、様々な人たちと交流ができること、行動の範囲が広がること。
- ・幼少期から預かっているので成長を見届けられる。子どもの様々な行動などから成長を感じたとき。
- ・周りの人たちから「～のお母さん」、「～のお父さん」と言われたとき。
- ・児童相談所職員から、子どもが「里親に～といったことを言われて、とてもよかった」という話を聞いたとき。

里親としての課題や辛さ

- 里親養育をしていて困難や辛さを感じることは何ですか。
- ・生い立ちの困難さから養育が難しく、問題が大きくなるとさらにその困難さが増してしまうことがある。
- ・反発、試し行動にどう対応したらよいかわからない。
- ・小さい時から一緒に生活し親子関係ができている子には、遠慮なく叱ることができるが、大きくなってから預かった子には叱り方が難しい。
- ・里子との信頼関係を作ること。
- ・子どもにより食事の習慣などが異なること。

里親を継続するために必要な環境

- 里親養育を継続するために、必要な環境はどのようなものですか。
また、どのような支援を希望しますか。
- ・里親登録に係る手続きをワンストップで行えるようにしてほしい。

- ・気楽に話せる人が近所にいるとよい。里親会の仲間、パパ友、ママ友などと、たわいもない話をする中で相談もできるとよい。
- ・難しい子どもたちが多くなっている現状では、タイムリーな支援が必要。そのためには、里親と児童相談所のケースワーカーとは日頃から交流し、信頼関係を築いておく事が重要だと思う。信頼関係があれば家庭のことも話しやすい。
- ・子どもの成長につれて、必要なものが高価になることが多くなるため、金銭的な補助があると助かる。例えば、子ども部屋を作る際のエアコンの設置、部活で使う道具などの購入費用など。
- ・児童相談所からの支援の中で、心理司や医師の話を聞くことができ、子どもとの橋渡しをしてもらえたのが非常に良かった。里親の価値観を押し付けてしまう恐れがある中、専門家からのアドバイスをもらうことで、心の負担が軽くなった。

里親家庭で養育する利点

- 施設での養育と比べ、里親家庭で養育することには、どのように良いことがあると感じていますか。
- ・1対1の関係を築けること。
- ・365日一緒にいられること。
- ・里親措置解除後も、子どもにとっては小さい頃一緒に遊んだ思い出が大切だと思う。
- ・習い事の送迎など、家庭と同じ環境でやりたいことをやらせてあげることができる。
- ・きめ細やかな対応ができ、子どもにとっても自分一人を見てくれるという満足感がある。
- ・将来、自分が作る家庭を想像でき、理想ではなく現実的な夫婦関係を見ることができる。

里親家庭で養育する課題

- 施設での養育と比べ、里親家庭で養育することに、課題と感じていることは何ですか。

- ・家庭では甘やかしすぎることがあるが、施設ではルールやしつけがしっかりしている。
- ・招待行事やプレゼントなど、施設の方が手厚いと感じることがある。
- ・子どもが里親宅に来る以前の写真や情報が少ない。
- ・施設では、同世代の子どもとの関わりがあるため、他の子を見て振り返ることができ、片付けなど社会性も育つ。
- ・施設では、様々な大人と接する機会が多い。

里親委託を推進するための課題

●今後、里親の登録数、里親への委託数を増やすために、課題と思うことは何ですか。

- ・里親制度を知ってもらう機会を増やすこと。以前里親会が実施していた、各地の行政センターや健康福祉センターなどでの里親相談会やパネル展示などを行い、興味を持ってもらう機会を作ることが重要だと思う。
- ・里親へ措置するケースの見極めが課題。家庭環境を見ると明らかに里親に預けたほうが良いと思われるケースでも実親のところに帰ってしまうことがある。また障害のある子を里親に預けるなど、里親の負担が大きく、不調になる原因となっている場合がある。
- ・「やってよかった」と感じられる里親体験の提供が必要。
- ・未委託の里親を育成することが課題。施設の子どもたちと遊ぶ機会、赤ちゃんの対応の仕方を学ぶ機会、子育てサロンへの参加などを通じて親子関係を築く力を学ぶことが必要。
- ・「血のつながりが大事」という社会全体の意識を変えることが重要だと感じる。
- ・里親の数は増加しているものの、実際に委託されているケースが少ないと聞いているため、マッチングのプロセスを見直す必要がある。
- ・受託するまでは子どもに会えないという現行の規定を変更し、事前にもう少し多くの情報を提供してほしい。
- ・児童相談所に相談するまでもないような些細な事柄を気軽に相談できる場が必要。
- ・児童相談所が安心して里親へ子どもを預けられるようになるために、里親に対する教育を充実させ、里親と職員が顔見知りになれるとお互いの信頼関係も築けると思う。その結果、職員も他の業務にも注力できるようになると思う。
- ・以前の里親講座でのビデオは感動的で良いものであったが、最近ではビデオの

時間が短縮され、講座も全体的に短縮されている。ビデオの時間やグループミーティング（里親へ質問できるコーナー）の時間をもっと増やすと良いと思う。

- ・里親講座を様々な場所で開くことが有効だと思う。
- ・里親制度への理解が広まっていない。自分にはできないと思う人が多い現状を変えるためには、口コミで実際の里親体験が広がることが重要。海外ではオープンだが、日本ではまだ隠されがちな現状があると思う。
- ・未委託の里親宅への家庭訪問を行うことで、児童相談所と里親間の信頼感が醸成され、委託がしやすくなると思う。

児童が進路を考える際に必要な支援

- 児童が進路を考える際の支援として、何が課題となっていて、どのような支援が必要だと思いますか。

- ・子ども自身の進路の視野が狭くなりがちのため、「高校卒業後も里親委託が継続され、大学進学などが十分に可能であること」を、何度も繰り返し知らせる支援が必要だと思う。
- ・子どもによって発達の程度に差があり、措置解除の年齢になっても自立が難しいことがあるため、高校卒業後も里親委託を継続することが特例ではなく、普通のこととして支援されるべきであると思う。
- ・児童相談所のケースワーカーや心理司、里親、里子の三者面談があるとよいと思う。そうすると、進路についての理解と支援が深まると思う。
- ・NPO法人から支援を受けている場合は、里親も内容を知りたい。
- ・里親宅を出た後も、再度里親宅に頼ってよいという制度があるとよい。
- ・自立後も病気になったときに利用できる施設があると良いと思う。

その他

- ・中高生の里親を希望しているのにベビーホームでおむつ替えの研修があることや、モップ掛けなど職員の仕事を手伝わされるのは無駄だと思う。研修内容が適切に考えられておらず、施設の職員もなぜこの研修を行わせているのか理解できていないのではないかな。研修は横の連携をとって実施するべきである。

- 決まりごとがあるのは分かるが、里親の家庭の事情や関係性を考慮して柔軟に対応してほしい。何らかの理由で決まりがあるならば、その説明を納得できる形でしてほしい。
- 卒業証書などの正式な文書には戸籍上の名前が記載されるが、里子の希望を聞き入れて、所長の判断で変更可能なものは変更するべきである。
- 里子が入院した場合、実際はお見舞いや洗濯などの負担がかかるにもかかわらず、入院中は委託解除となり補助金が支給されないことに疑問を感じる。もう少し柔軟に対応してほしい。
- 里親委託する際にケースワーカーは児童に対して 18 歳で自立しなければならないと伝えているが、必ず言わなければいけないのか疑問を感じる。里子に方針を伝える前に里親と協議してほしい。
- 親子関係を構築するためにも、委託の開始は幼少期が望ましい。児童相談所が判断を迷っている間にも児童は成長してしまうため、迅速な判断が必要である。
- ワクチン接種の判断は実親がすることになっているが、里親にもっと任せてもらいたい。